

第13節 人と自然との触れ合いの活動の場

事業実施区域及びその周辺には、触れ合い活動の場（旭公園、前山ダム公園等）が存在し、工事の実施（資材及び機械の運搬に用いる車両の運行）及び土地又は工作物の存在及び供用（道路の存在）（以下「工事の実施及び道路の存在」という。）による人と自然との触れ合いの活動の場（主要な人と自然との触れ合いの活動の場）への影響が考えられるため、調査、予測及び評価を行った。

13.1 調査

(1) 調査の手法

① 調査した情報

a) 触れ合い活動の場の概況

触れ合い活動の場の概況を調査した。

b) 主要な触れ合い活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況

主要な触れ合い活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況を調査した。

② 調査手法

調査は、既存資料調査及び現地調査により行った。

既存資料調査は、触れ合い活動の場の概況、主要な触れ合い活動の場の分布について、観光資料等により把握した。

現地調査は、主要な触れ合い活動の場の分布、利用の状況について現地調査及び聞き取り調査を行うとともに、主要な人と自然との触れ合いの活動の場を取り巻く自然資源の状況について、写真撮影により把握した。

③ 調査地域及び調査地点

調査地域は、表8-13-1及び図8-13-1に示すとおり、対象道路が人と自然との触れ合いの活動の場の利用性の変化、快適性の変化を生じさせる範囲（事業実施区域の端部から500m程度の範囲）を考慮して、その範囲における主要な人と自然との触れ合いの活動の場が分布する地域とした。

調査地点は、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用性や快適性に及ぼす影響を適切に把握できる地点とした。

表8-13-1 調査地域

番号	調査地域	
1	聚楽園公園・しあわせ村	東海市名和町・荒尾町
2	知多運動公園	知多市緑町
3	旭公園	知多市日長・金沢
4	前山ダム公園	常滑市金山

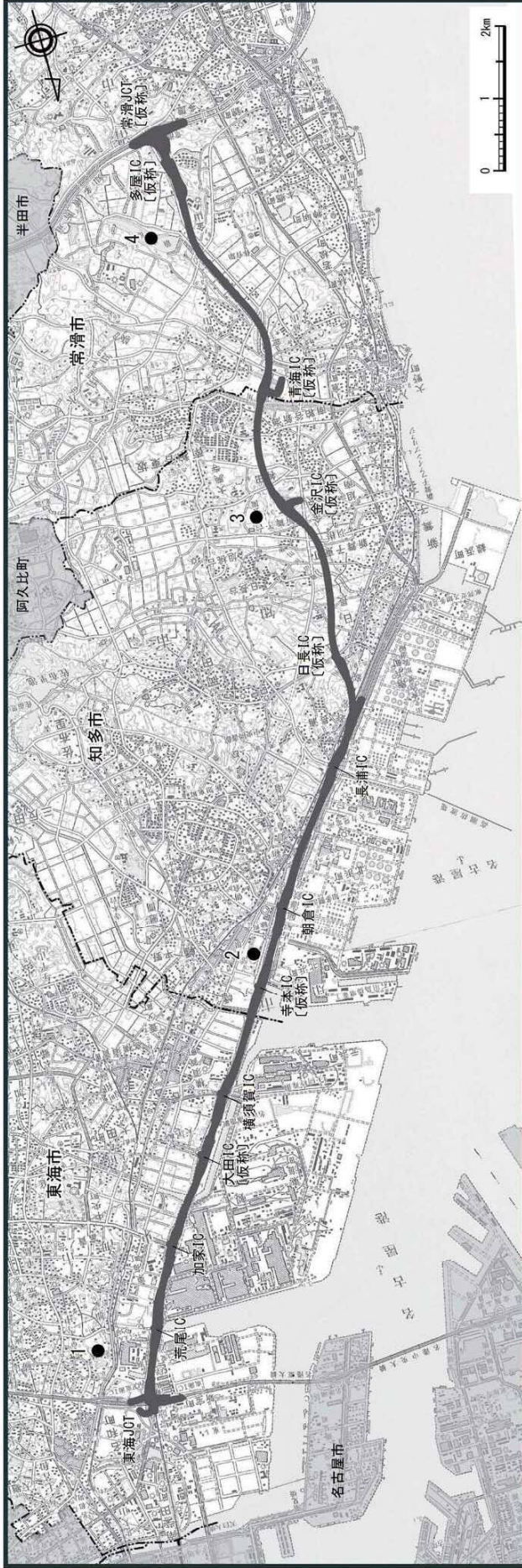
④ 調査期間等

既存資料調査は、入手可能な最新資料とした。

現地調査期間は、表8-13-2に示すとおり、春夏秋ごとにそれぞれ休日とした。

表8-13-2 現地調査期間

調査項目	期 間	
現地調査	春季	平成23年4月29日（金：祝日）
	夏季	平成23年7月16日（土）
	秋季	平成23年10月9日（日）
聞き取り調査	平成23年5月、6月	



凡例		名称
●	記号	東海市名和町・荒尾町
	番号	知多市緑町
		知多市日長・金沢
		常滑市金山

凡例		都市計画対象道路事業実施区域
—		行政界

図8-13-1 人と自然との触れ合いの活動の場調査位置図

(2) 調査結果

① 既存資料調査結果

既存資料による触れ合い活動の場の概況、主要な触れ合い活動の場の分布は、「第4章第1節1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況 2) 人と自然との触れ合いの活動の場」に示すとおりである。

② 現地調査結果

主要な触れ合い活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況は、表8-13-3～表8-13-6に示すとおりである。

表8-13-3(1) 調査結果（聚楽園公園・しあわせ村）

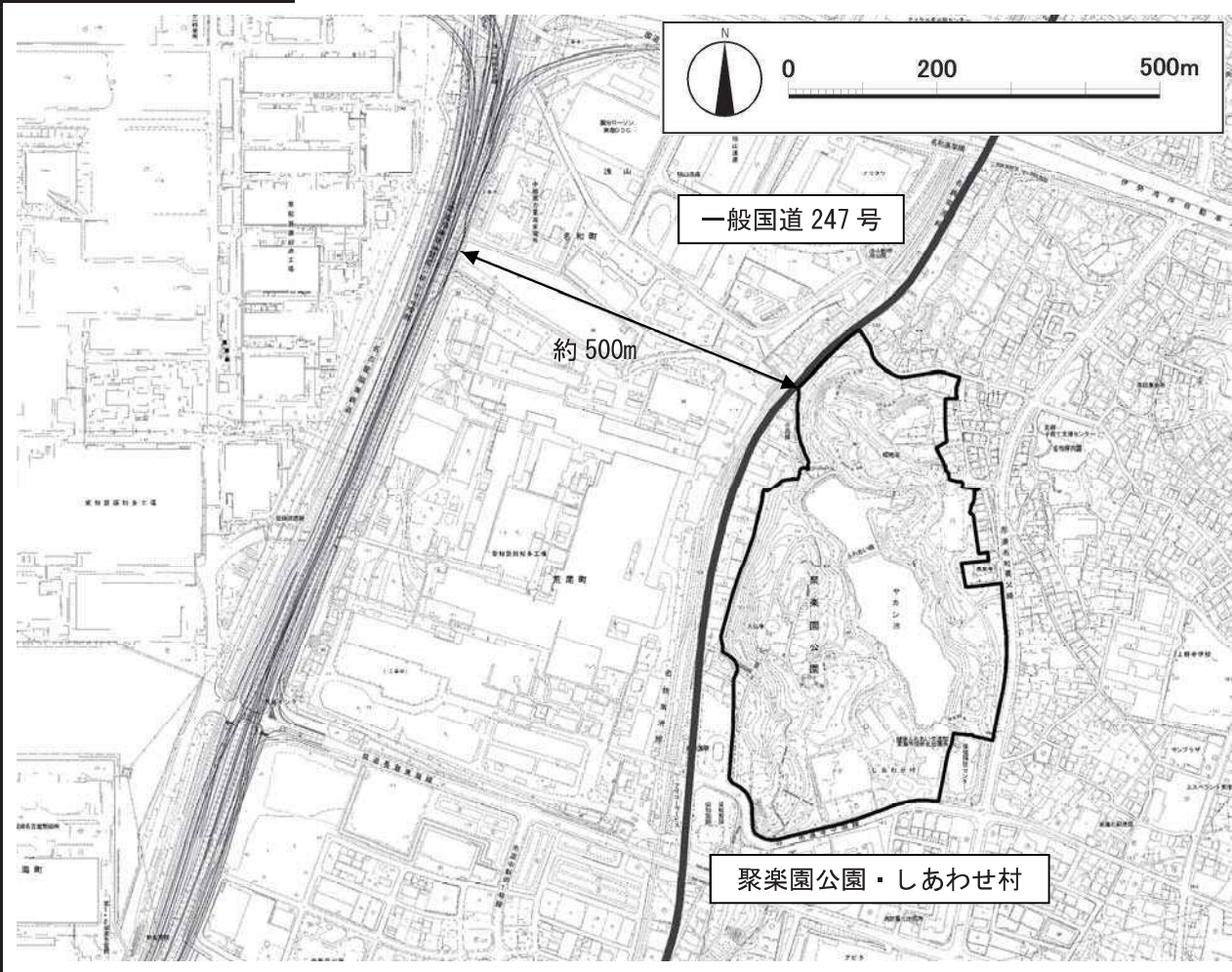
調査地点名	聚楽園公園・しあわせ村
所在地	東海市名和町・荒尾町
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・公園面積：約18.6ha ・対象道路より東へ約500mに位置する。 ・キャンプ場やハーブ園などがあり、市街地の中で身近な自然に触れることができる。 ・小高い丘の上に位置することから周囲の眺望も良好である。
分布状況	

表8-13-3(2) 調査結果（聚楽園公園・しあわせ村）

利用の状況及び利用環境の状況

- ・遊歩道を散歩する利用者が多数確認された。その他、広場やキャンプ場等の利用も見られた。

(春 季)



散歩など日常の利用風景

(春 季)



キャンプ場の利用風景

(夏 季)



芝生広場の様子

(秋 季)



遊歩道の様子

表8-13-4(1) 調査結果（知多運動公園）

調査地点名	知多運動公園
所在地	知多市緑町
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・公園面積：約9.9ha ・対象道路より東へ約100mに位置する。 ・野球場、テニスコート、海浜プール、体育館、陸上競技場がある総合スポーツグラウンドである。 ・公園の周囲はジョギングコースがあり、健康と触れ合いの場として利用される。
分布状況	<p>The map shows the location of Chikuma Sports Park (知多運動公園) relative to the main road (市道大田朝倉線). A scale bar indicates 0, 200, and 500 meters. A north arrow is also present. The park is located approximately 100 meters east of the road. The map also shows various buildings and streets in the surrounding area.</p>

表8-13-4(2) 調査結果（知多運動公園）

利用の状況及び利用環境の状況		
・ジョギングコースの利用者が多数確認された。その他、野球場、テニスコート、陸上競技場等の利用も見られた。		
(春 季)  ジョギングコースの様子	(夏 季)  散歩など日常の利用風景	
(秋 季)  ジョギングコースの様子	(秋 季)  散歩など日常の利用風景	

表8-13-5(1) 調査結果 (旭公園)

調査地点名	旭公園
所在地	
知多市日長・金沢	
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・公園面積：約 16.4ha ・対象道路より東へ約 70m に位置する。 ・知多市南部の拠点公園として、多目的グラウンド、テニスコートの他、ちびっこ広場や和風庭園等もあり、多目的に利用できる。
分布状況	

表8-13-5(2) 調査結果 (旭公園)

利用の状況及び利用環境の状況

- ・ 散歩による歩道の利用や、広場の利用が多く確認された。その他、テニスコート、バーベキュー場等の利用が見られた。

(春 季)



広場の利用風景

(春 季)



自然資源の状況

(夏 季)



遊歩道の様子

(秋 季)



散歩など日常の利用風景

表8-13-6(1) 調査結果（前山ダム公園）

調査地点名	前山ダム公園
所在地	常滑市金山
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・公園面積：約 4.1ha ・対象道路より東へ約 250m に位置する。 ・水辺の自然環境を生かして、水辺に近づくる親水場所や散策路等があり、水辺に親しむことができる。
分布状況	

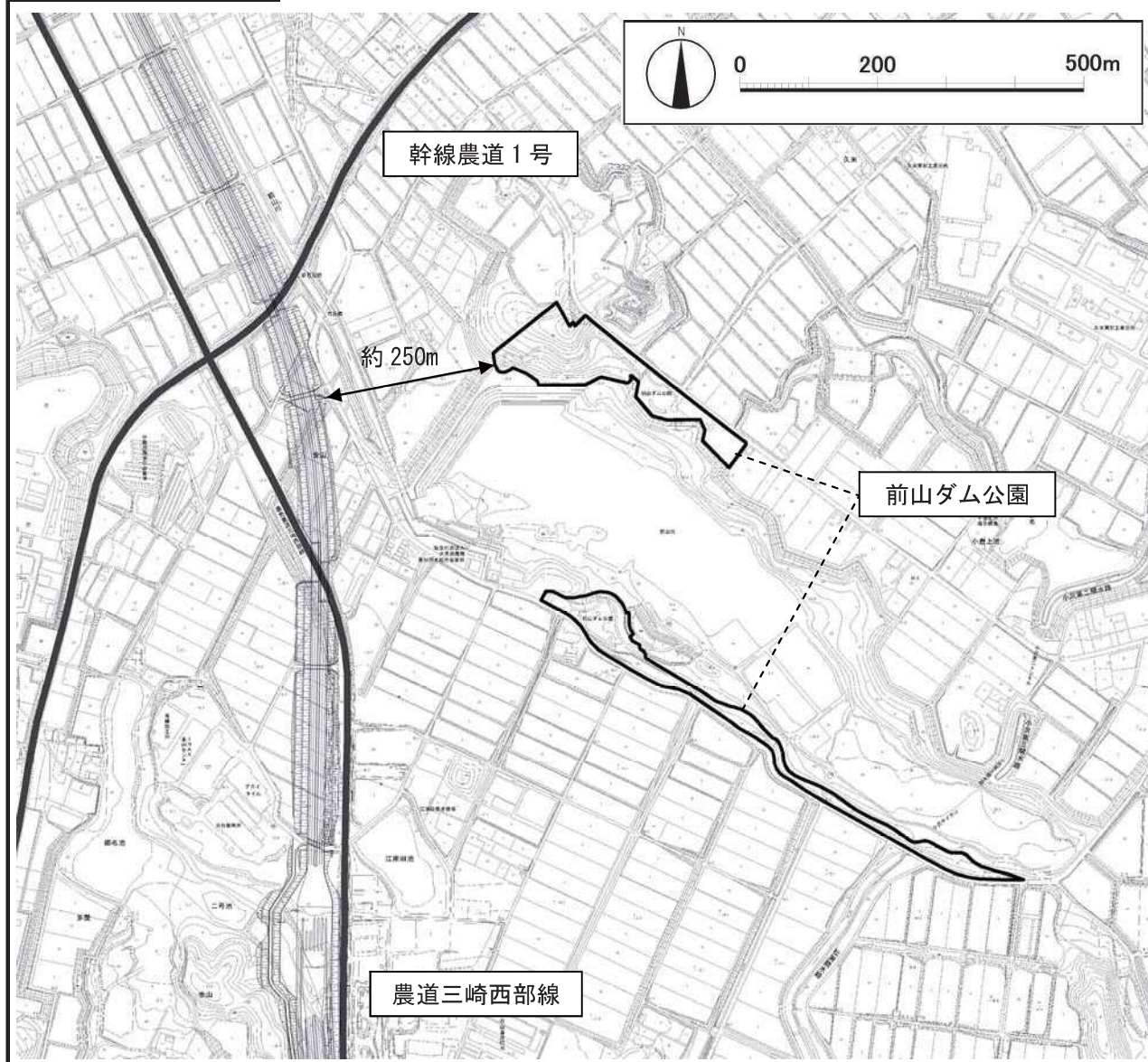


表8-13-6(2) 調査結果（前山ダム公園）

利用の状況及び利用環境の状況

- ・園内を散歩する利用者や広場で休憩する利用者等が確認された。

(春 季)



広場の利用風景

(春 季)



散歩など日常の利用風景

(夏 季)



広場の様子

(秋 季)



広場の利用風景

13.2 予測及び評価

13.2.1 工事の実施及び道路の存在に係る人と自然との触れ合いの活動の場

1) 予測

(1) 予測の手法

工事の実施及び道路の存在に係る人と自然との触れ合いの活動の場の予測は、「道路環境影響評価の技術手法2007改訂版」（平成19年、財団法人 道路環境研究所）に基づき行った。

① 予測手法

主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源と事業実施区域の重ね合わせにより、主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源の改変の位置及び程度を把握するとともに、利用性の変化及び快適性の変化（近傍風景の変化）を把握することにより予測した。

② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源の改変、利用性の変化、快適性の変化が生じる地域とした。

③ 予測対象時期等

予測対象時期は、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の影響を明らかにする上で必要な時期とし、工事の実施期間及び対象道路の完成時とした。

(2) 予測結果

予測結果は、表8-13-7に示すとおりである。

表8-13-7 (1) 予測結果（聚楽園公園・しあわせ村）

予測項目	予測結果
主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源の改変	対象道路より東に約500m離れているため、触れ合い活動の場及び自然資源の改変は生じないと予測される。
利用性の変化	<p>触れ合い活動の場及び自然資源の改変は生じないため、利用の支障が生じる箇所及び利用可能な人数の変化は生じないと予測される。</p> <p>また、聚楽園公園・しあわせ村へアクセスする道路である一般国道247号は、対象道路によって分断されないことから、対象道路の供用が周辺地域から聚楽園公園・しあわせ村までの到着時間、距離に大きな変化を及ぼすことはないとは予測される。なお、一般国道247号の交通流が対象道路へ移行することに伴い、利用性が向上すると考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、事業実施段階において、できる限り環境に影響の少ないルート設定に努め、工事用車両の集中を避ける運行計画とするとともに、休日は、原則として工事用車両を運行しないことから、到達時間に大きな変化を及ぼすことはないとは予測される。</p>
快適性の変化	聚楽園公園・しあわせ村から対象道路は視認できるが、可視の程度は小さく、人工物の一部として捉えられるため、視認できる風景はほとんど変化しないと予測される。

表8-13-7 (2) 予測結果（知多運動公園）

予測項目	予測結果
主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源の改変	対象道路より東に約100m離れているため、触れ合い活動の場及び自然資源の改変は生じないと予測される。
利用性の変化	<p>触れ合い活動の場及び自然資源の改変は生じないため、利用の支障が生じる箇所及び利用可能な人数の変化は生じないと予測される。</p> <p>また、知多運動公園へアクセスする道路である市道大田朝倉線は、対象道路によって分断されないことから、対象道路の供用が周辺地域から知多運動公園までの到着時間、距離に大きな変化を及ぼすことはないとは予測される。なお、知多運動公園へのアクセスルートが増えるため、利用性が向上すると考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、事業実施段階において、できる限り環境に影響の少ないルート設定に努め、工事用車両の集中を避ける運行計画とするとともに、休日は、原則として工事用車両を運行しないことから、到達時間に大きな変化を及ぼすことはないとは予測される。</p>
快適性の変化	知多運動公園から対象道路は視認できるが、現状においても既設道路が存在しているため、視認できる風景はほとんど変化しないと予測される。

表8-13-7 (3) 予測結果 (旭公園)

予測項目	予測結果
主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源の改変	対象道路より東に約70m離れているため、触れ合い活動の場及び自然資源の改変は生じないと予測される。
利用性の変化	<p>触れ合い活動の場及び自然資源の改変は生じないため、利用の支障が生じる箇所及び利用可能な人数の変化は生じないと予測される。</p> <p>また、旭公園へアクセスする道路である県道草木金沢線及び市道新舞子大興寺線は、対象道路によって分断されないことから、対象道路の供用が周辺地域から旭公園までの到着時間、距離に大きな変化を及ぼすことはないと予測される。なお、旭公園へのアクセスルートが増えるため、利用性が向上すると考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、事業実施段階において、できる限り環境に影響の少ないルート設定に努め、工事用車両の集中を避ける運行計画とするとともに、休日は、原則として工事用車両を運行しないことから、到達時間に大きな変化を及ぼすことはないと予測される。</p>
快適性の変化	対象道路は西に約100mの地点を切土構造で通過するが、旭公園からは視認できないため、視認できる風景は変化しないと予測される。

表8-13-7 (4) 予測結果 (前山ダム公園)

予測項目	予測結果
主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源の改変	対象道路より東に約250m離れているため、触れ合い活動の場及び自然資源の改変は生じないと予測される。
利用性の変化	<p>触れ合い活動の場及び自然資源の改変は生じないため、利用の支障が生じる箇所及び利用可能な人数の変化は生じないと予測される。</p> <p>また、前山ダム公園へアクセスする道路である農道三崎西部線及び幹線農道1号は、対象道路によって分断されないことから、対象道路の供用が周辺地域から前山ダム公園までの到着時間、距離に大きな変化を及ぼすことはないと予測される。なお、前山ダム公園へのアクセスルートが増えるため、利用性が向上すると考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、事業実施段階において、できる限り環境に影響の少ないルート設定に努め、工事用車両の集中を避ける運行計画とするとともに、休日は、原則として工事用車両を運行しないことから、到達時間に大きな変化を及ぼすことはないと予測される。</p>
快適性の変化	前山ダムから対象道路は視認できるが、地形の改変の程度は小さく、また、対象道路については周囲の景観に配慮し、外観や色彩等はできる限り周辺環境と調和したものとする計画であることから、視認できる風景はほとんど変化しないと予測される。

2) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討の状況

予測の結果、対象道路によって、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の改変は生じず、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用性及び快適性への影響は極めて小さいと考えられることから、環境保全措置の検討は行わないこととした。

なお、対象道路の計画にあたっては、野外レクリエーション地など多様な触れ合い活動の場の確保に配慮している。

また、詳細設計及び事業実施段階においては、以下の事項に配慮する。

- ・ 橋梁・高架等の詳細設計においては、外観や色彩をできる限り周辺環境・景観と調和したものとなるように努める。
- ・ 盛土や切土法面等は、極力在来種による緑化を行い、できる限り周辺環境・景観と調和したものとなるように努める。
- ・ できる限り環境に影響の少ないルート設定に努めるとともに、工事用車両の集中を避ける運行計画とする。

3) 評価

(1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

工事の実施及び道路の存在による人と自然との触れ合いの活動の場への影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境保全についての配慮が適正になされているものであるかどうかについて、見解を明らかにすることにより行った。

(2) 評価結果

① 回避又は低減に係る評価

対象道路は、人と自然との触れ合いの活動の場の確保に配慮した計画としている。

また、詳細設計及び事業実施段階において、前述（「2)環境保全措置の検討(1)環境保全措置の検討の状況」）した事項について配慮する。

したがって、環境への影響は事業者の実行可能な範囲内で、回避又は低減が図られているものと評価する。